



やり遂げた満足感ともっとやりたいと

ROMO を手にした子どもたちの笑顔

— ロボットプログラミング教室 (例) キッズクラブの場合

・最初に子どもらの興味・関心の背景を知るための事前アンケートがあります。



・受付を済ませると同時にメンターの学生たちが不安を取り除き、興味関心を増すような支援が始めます。



・最初に「初めてのプログラミング体験」が多いと予想されますので、異年齢の子どもらにわかりやすいように、ロボットとプログラミング、全体の流れを説明します。



・学生のリーダーによる具体的な作業の説明が全体にあり、一人一人が ROMO の動きを確認します。

・いくつかのミッションをクリアするためにグループごとにメンターの学生が身近な支援と指導にあたります。指示したとおり (プログラミング) に ROMO が動き出すと教室は熱気に包まれてきます。

・飯島小キッズクラブは会場を体育館で実施したため、ROMO を自在に動かすことができ、子どもらの満足度は倍増したようでした。

・最後は発表を兼ねて、グループで宇宙探検に向かいます。

・名残惜しく今回も終了です。



12月10日、「アクセンチュア株式会社」と「NPO 法人 CANVAS」が進めている「課題解決型ロボットプログラミング教室」に「一般社団法人横浜すばいす」と「情報科学専門学校」と参加して、栄区の飯島小学校キッズクラブで開催した。

はまぎんこども宇宙科学館からお借りした ROMO で～す!

### ROMO とは

Romo(ロモ)は iPhone などでも動く「体感型のエデュケイショナルロボット」で、誰でも動かすことが可能です。iPhone アプリが頭脳の役割になり、様々な感情や動きを表現することができます。楽しみながら子どもの論理的思考や創造力、思考力を育むことができ、遊びや学びの幅がさらにひろがる可能性を秘めています(ROMO 公式サイトより)



### ROMO 一人1台の贅沢体験

キッズクラブという異年齢集団対象に対応し、ロボットは ROMO を使用し、一人一台という実践重視の贅沢なプログラミング体験になった。

アクセンチュア株式会社と NPO 法人 CANVAS が所有する「ロボットプログラミング指導プログラム資料」を活用して、子どもらをわかりやすく導き、ROMO を動かすプログラミングを情報科学専門学校の学生たちが担当した。

コンピューターやプログラミングの専門家である情報科学専門学校の学生が児童 2, 3 名に対して 1 名が指導・支援するという非常に恵まれた環境で、瞬間に子どもらの目が輝き夢中になっていく様子が教室全体に広がった。

ROMO を始めとして、無料で使用できるプログラミング材料が web 上には多数存在する。児童の理解や興味・関心に応じて、学習を深めることができるように家庭でも可能な資料やサイトを紹介して、「初めてのプログラミング教室体験」を終了した。

平成 30 年度に小学校で「プログラミング教育が必修化」されるが、「プログラミングを体験する」積極的な取り組みにより、「プログラミング教育」の準備をご一緒しませんか。

Robo\*C の「課題解決型 ロボットプログラミング教室」は多忙な学校に新しい指導の形を提供するシステムです。その学校の実情に合わせてカスタマイズできるプログラムと講師・運営人材を用意して各学校へ伺う、先生方に優しい出前教室です。

10 年後には現在の職業の半数以上がロボットに代わってしまうだろうといわれている未来という現実社会に生きる子どもたちが「プログラミング教育」を学ぶ第一歩を魅力的な場にてできる Robo\*C の活動をご活用ください。

(一般社団法人横浜すばいす:Robo\*C 担当 古川三千代)

